

井筒俊彦をこえて 「あたらしい東洋哲学」はどこにあるのか 2020/10/23 安藤礼二

●石田英敬「記号の場所」はどこにあるのか、への応答

パースと西田→パースと大拙、ケーラスの一元論哲学、『モニスト』

大拙の『大乘起信論』英訳→真如=如来蔵=アーラヤ識、法身・報身・応身

パースの指標・類像・象徴、スピノザの実体・属性・様態、「意味」の深み

Mindとしての「靈性」から Spirituality としての「靈性」へ

ジェイムズ、ロイス、ビアトリス 生物学と心理学（進化論と潜在意識論）

●「個体発生は系統発生を繰り返す」

エルンスト・ヘッケルの一元論的生物学、「胚」の発生論、結晶とモネラ

→エドワード・ドリンカー・コープのアナゲネシスとカタゲネシス

→ベルクソンのエラン・ヴィタル、「閉じられた社会」と「開かれた社会」

→「退化」と「超=幼生化」、プロジェネシスとネオテニー

アンナ・ブラムウェル『エコロジー』→エコロジーとナチズム

スティーヴン・J・グールド『個体発生と系統発生』→「胎児」としての人間

●近代における神と仏：憑依と如来蔵

折口信夫（1887-1953）の「神道」

→「神憑り」（神主と審神者）、「産霊」の神、『言語情調論』

鈴木大拙（1870-1966）の「仏教」

→「如来蔵」（法身・報身・応身）、「日本的靈性」（禪・浄土・華嚴）

井筒俊彦（1914-1993）の「一神教」

→「神秘」（ディオニュソスとプロティノス）、「無」の神（存在一性論）、『言語と呪術』

●古代における神と仏：『日本書紀』

「神憑り」

→神代紀の天岩窟、崇神紀・垂仁紀のアマテラスの憑依、神功紀の神主と審神者

「如来蔵」

→推古紀の厩戸皇子、『勝鬘経』と『法華経』、「聖」の原型（『日本靈異記』）

「言霊」

→神代紀の蠅声（さばえ）なす「邪神」、「草木」ことごとく言語（ものいう）

●「空海」へ

空海（774-835）と宗密、「靈性」の起源

『釈摩訶衍論』『大日経』『金剛頂経』、法相（唯識）と三論（中論）、天台と華嚴

「法身」が説法する→「弁頭密二經論」

「十住心」の構造→

異生羝羊心（第一住心）・愚童持齋心（第二住心）・嬰童無畏心（第三住心）

唯蘊無我心（第四住心）・拔業因種心（第五住心） 声聞と独覚

他縁大乘心（第六住心）・覚心不生心（第七住心） 法相（唯識）と三論（中観）

一道無為心（第八住心）・極無自生心（第九住心） 天台と華嚴

秘密莊嚴心（第十住心）

●「即身成仏義」と「声字実相義」

「即身成仏義」

六大無礙にして常に瑜伽なり

四種曼荼各離れず

三密加持して速疾に顕わる

重重帝網なるを即身と名づく

「声字実相義」

五大に皆響き有り

十界に言語を具す

六塵悉く文字なり

法身は是れ実相なり

言は「曼荼羅」であり、名は「法身」である

●「本覚」思想の功罪、「靈性」の帰結

「一切衆生悉有仏性」（『涅槃經』）

「草木国土悉皆成仏」（天台本覚思想）

仏教アナキズムと仏教ファシズム、大逆事件と満州事変、内山愚童と田中智学

「娑婆即寂光土」、華嚴と大東亜共栄圏